

## 特別講演 1

### 「便秘の養生訓」

松波総合病院消化器内科 顧問

伊藤 康文 先生

現在わが国の慢性便秘患者数は 1,000 万人超と推察されています。しかし患者さんの多くは便秘を病気と考えておられません。また医師の側も長年便秘治療薬といえば酸化マグネシウムとセンノシドのみであり便秘診療への情熱が薄かったことは正直認めませんでした。

しかし最近になり、残便感の無い完全自発排便を達成できる新たな便秘薬が、次々に上市されました。さらに 2017 年 10 月にわが国初の「慢性便秘症診療ガイドライン」が発刊され、昨年 7 月に改訂されました。「お通じは週何回？」という排便回数だけでなく、患者さんの実際の悩み（排便困難感、残便感など）にも着目した点は大きな進歩といえます。「便秘診療の暗黒時代」はもはや終焉したと言えます。

今回は便秘の生活習慣に関する話題の他、胆汁酸トランスポーター阻害薬エロビキシバット（グーフイス錠）について最近の知見を交え解説致します。